

## 弁理士ジョージの相談室 Q & A

ジョージ先生、1年前には特許と意匠の出願でお世話になりました。我が社初の出願でしたが、無事登録され、製品の販売台数も伸びています。現在は、市場からの要望を反映した改良版を検討中です。



そうですね。

改良版は、基本機能は前回の製品と同じですが、「サイズ調整機能」が加わります。改良版の特許と意匠の出願について、社内意見がまとまりません。



どのようなご意見が出ているのでしょうか。

模倣防止のために出願した方がよいという意見と、基本機能の特許権と意匠権は取得できたのだから、これ以上費用をかけて出願しなくてよいという意見です。



たしかに費用はかかりますが、基本機能の特許権とは別に改良版を永く保護するため、「サイズ調整機能」の特許出願をお勧めします。また、販売好調な御社の製品を見た他社が後続品を開発しようとして、御社と同じ「サイズ調整機能」を思いついて特許出願するかもしれません。同じものが先に特許されると、御社での権利取得が阻まれますから、なるべく早く出願した方がよいでしょう。

ジョージ先生からのアドバイスを踏まえて再検討します。意匠はどうでしょう？



新製品は、従来製品とは見た目が変わりますか？

はい、「サイズ調整機能」のための新構造によって見た目も一新されています。



そうすると、意匠出願して新製品の外観も保護した方がよいでしょう。

## なすびくんのお仕事

版和之(作) 飯岡菜子(画)



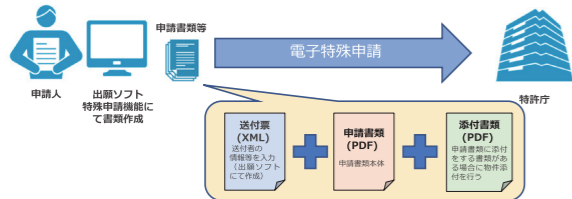
### 日本弁理士会マスコットキャラクター「はっぴょん」

「はっぴょん」は弁理士制度100周年に当たる1999年に誕生しました。?マークが帽子をかぶっているようで面白いでしょう。「はっぴょん」の名前の由来は「アイデアが「はっ」と湧いたら「びょん」と弁理士に相談してね」です。はっぴょんは、私たちの生活に関わる知的財産についてわかりやすく教えてくれます。

## 特許庁からのお知らせ

### 電子特殊申請について紹介します！

＜特許庁に対する電子特殊申請イメージ＞



これまで書面でしか提出できなかった書類について、インターネット出願ソフトを使用してオンライン申請することが可能になりました（電子特殊申請）。また、現在押印が求められる証明書等についても、専用アプリを利用して電子署名をすることでオンラインで提出することができるようになりました。



詳しくは特許庁HPへ  
[申請手続のデジタル化について]



## JPAA Information

中小企業・スタートアップ向けメール配信サービス 登録受付中！

### 知財・イベント情報の メール配信登録受付中！

日本弁理士会 知的財産経営センター

日本弁理士会知的財産経営センターが行う中小企業・スタートアップ向けセミナーやイベントの情報、知的財産権に関する最新情報、ビジネスに役立つ情報等をお届けするメール配信サービスです。中小企業・スタートアップのビジネス活動にとって役立つ内容となっておりますので、是非ご活用ください

中小企業・スタートアップ向けメール配信サービス  
ご案内ページ

<https://www.jpaa.or.jp/about-us/attached/institution/management-2/mail/>



日本弁理士会  
広報誌

「PATENT ATTORNEY」は  
「弁理士」のことです。

# PATENT Attorney

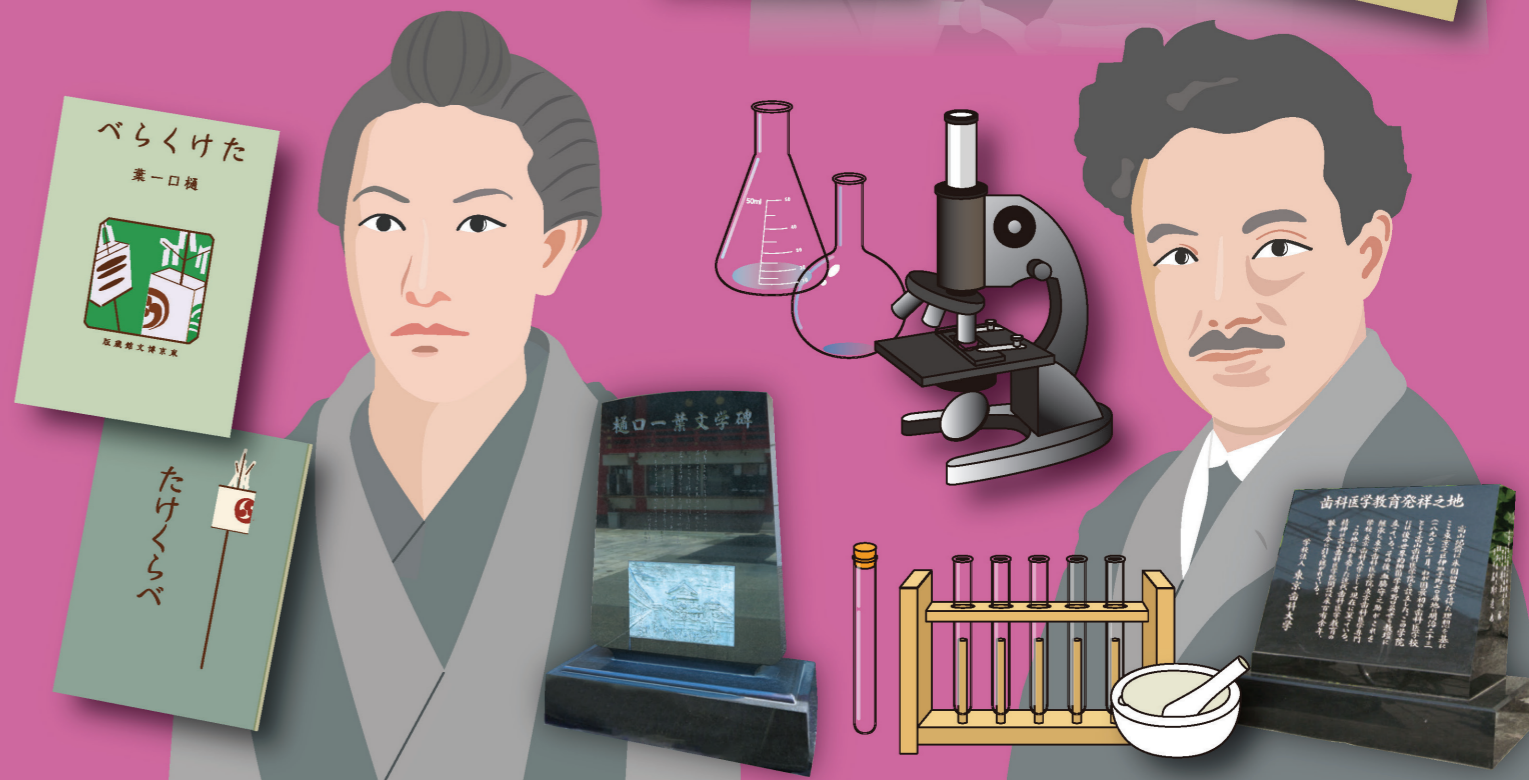
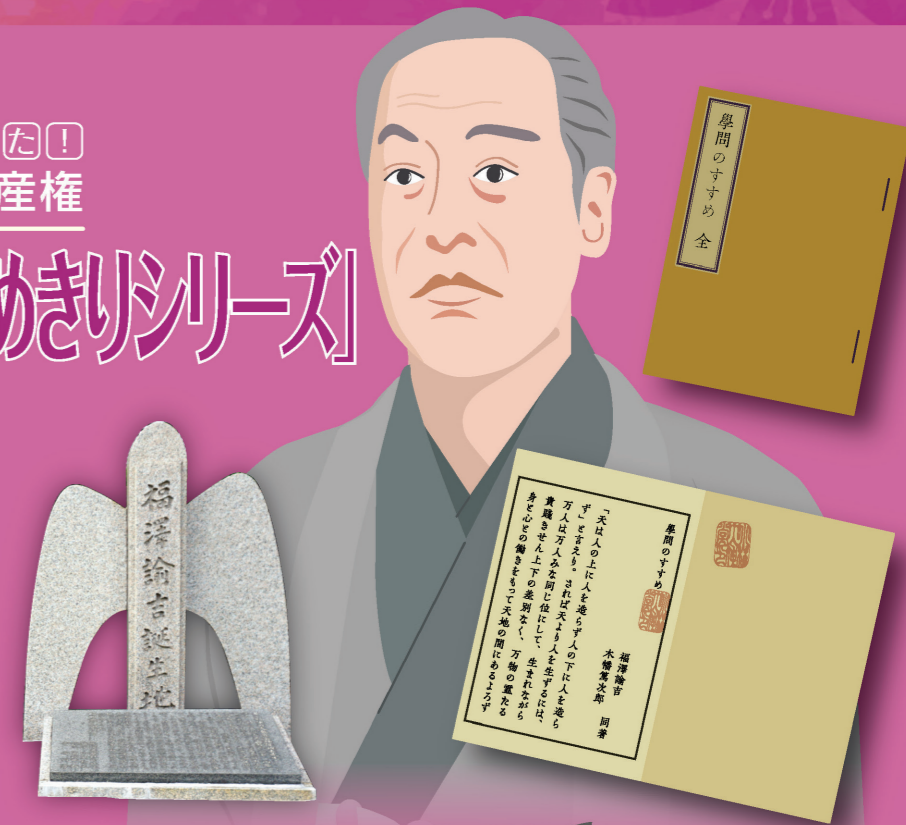
パテント・アトニー

2024  
VOL.113  
春号

ヒット商品はこうして生まれた！  
ヒット商品を支えた知的財産権

爪切りの課題を  
解消した革新的な  
「切らないつまきりシリーズ」  
「つまげずり」

- シリーズ特産品（諸富家具）
- 知っておきたい！この技術  
トレンドてっく（1.5℃の約束）
- 知財miniトリアビ
- 弁理士ジョージの相談室
- 漫画「なすびくんのお仕事」
- 特許庁からのお知らせ
- JPAA Information







# 切らないつめきりシリーズ

特許 第6559672号  
商標登録 第5746547号、第6285309号



## 爪切りの課題を解消した革新的な「つめけずり」

松本金型株式会社の「切らないつめきり」シリーズは、伸びた爪を切るのではなく、削って整えるユニークな製品だ。従来の爪切りは二枚の刃で爪をはさんで切る際に爪が飛ぶ、割れる、二枚爪になるといった難点があった。また爪ヤスリでは削りカス(爪粉)が舞い散る。こうした課題を解消して、爪切りから仕上げまでを一気にできる道具として開発されたものだ。2014年に発売した後「魔法のつめけずり」などのシリーズを展開して、現在ではOEM商品3種を含め10パターンほどがあり、累計販売数150万本を超えるヒット商品である。

同社は1976年に設立、自動車プラスチック部品の射出成型金型の設計、製作を主に手がけ、金型の特許技術も持っている。創業者で代表取締役社長の松本文治さんは「ものづくり」を志して、創業までに金型会社などで金属加工も含めた技術を習得した経歴を持つ。創業後は金型の受注に忙殺されて自社製品開発どころではなかったが、2008年のリーマンショックで仕事が

激減。経営的にはピンチだったが、時間の余裕ができた松本さんは「自社製品を開発するメーカーになるチャンスだ」と考えた。精密な金型の技術を活かせるプラスチック製品として最初に開発したのは、樹脂製の微細なブラシで耳そう

じをする、痛くない耳かき「みみごち」だった。自社製品開発の挑戦を耳かきで始めたのは、小さい金型ならばコストを抑えられ、試作を繰り返すことが可能で、商品化に失敗してもダメージは最小限にできるのが理由だった。既存の耳かきにない柔らかな使い心地が話題になったが、消費者向けの製品販売の経験はなく、販路の開拓には苦労した。その状況を打開できたのは、広島産業振興機構が主宰する「販売戦略塾」で営業やマーケティングの基礎を学んだことによる。そして製品開発・製造のために事業部を新設してメーカーとしての体制を整えた。同社の強みは、金型の設計、製作からプラスチック製品の製造まで自社内で行える技術と設備を持っていることだ。同社の製品は全て内製されている。

「つめけずり」は同社の三番目の開発製品だ。爪を削るのに最適な刃の形状、角度など手探りで試作を繰り返し「手の爪だけでなく足の爪まで削って試したので、爪がなくなりました」と松本さんは笑いながら振り返る。初期モデルは約70枚の平面の

刃が0.2mmの間隔で並び、刃の隙間からはピンチだった爪粉が本体内部に落ちてたまる。構造はそのままに、削りやすいように刃にアールを持たせ、枚数を増やすなどの改良を重ね、現在の7代目の刃は0.03mm間隔で300枚のくの字型でメッシュ状になっている。この本刃の反対側には幅が狭く溝の深いトリミング刃があり、爪の端などの仕上げができる。本体は長さ10cmほどのペン型のデザインで、キャップを外すと刃があり、内部にたまった爪粉は下部を外してまとめて捨てられる。また丸ごと水洗いができて衛生的だ。ブルー、オレンジなどカラフルで子供から年配者まで広いターゲット向けになっているが、取引先の大手小売店から男性向け商品の要望があり、黒いボディのスタイリッシュな「爪王」が生まれた。刃の改良はシリーズ全ての製品に反映され、改良するごとにユーザーの評価は高まり売り上げも伸びた。

「魔法のつめけずり」は特許を取得しているほか、同社にとって初めての商標登録もされている。営業、販路開拓を担う同社MM販売事業部部長の小田原進さんは「販路を確保する上でも商標は重要です」といい、製品の優れた点を印象付けるネーミングを寝ずに考えたこともあるそうだ。同社はその後もヘッド部分が回転する歯ブラシ「くるりん」など新しい機能を持つ製品を世に出し続けている。コロナ禍で開発したフェイスシールドでは同社初の意匠登録をした。模倣されやすいヘルスケア関連製品だけに、知財を活用してアイデアと技術を守る意義は大きい。自社製品を発売してから10年余りで、事業部で開発した製品の売り上げは同社の売り上げ全体の5分の1を占めるまでになっている。



つめけずり VTR

## シリーズ JAPAN 特産品

# 諸富家具

商標登録第6554002号



家具産地としての諸富家具は、東西約3キロメートルに家具関連企業が集まる地区である佐賀県諸富町を中心として、筑後川をはさみ隣接する大川家具とともに発展してきました。そして、1955年の諸富・大川橋の開通により、家具産地大川から資材の調達などの交通も発達し、諸富が家具産地として名をあげる始まりの一步となりました。

諸富家具は伝統的な工芸品として佐賀県より地場産品の一つとして佐賀県指定(佐賀県指定伝統的地場産品)をうけており、

現在、九州での家具産地としては、大川に次いで第2位の出荷額を確保し、新しい家具産地として確立しております。

今もなお伝統的な技術・技法を引き継ぎ製作されていますが、昨今の家具市場の成熟化とますます多様化するニーズに応えるために、諸富家具は、ライフスタイルのワンシーンを演出するインテリアとしての家具製造に力を注いでいます。

その結果、家具本来の機能を果たす商品の企画からデザイン的にも優れた家具、特化した技術とオリジナリティでユニークな椅子

やテーブルなどを製造するメーカーもできており、また、木工製品ではオーダーメイドのプレート・時計などにレーザーで焼き込みをする企業や、特注家具専門では、施設の什器、バリアフリー家具など開発・製造のほか、インテリアの企画から施工まで取り扱う多様な企業も増えてきています。

また近年は海外輸出も積極的に展開し、「諸富家具」のブランド化にも力を注いでいます。

『諸富から世界へ』、常にチャレンジする家具産地を目指しています。

このコーナーに掲載御希望の方は、「特産品」のプロフィール・連絡先を右記までお送りください。 Fax 03-3519-2706 Mail panf@jpaa.or.jp

## 知っておきたい!この技術

### トレンドてっく

シリーズ

53

# 1.5°Cの約束

1.5°Cの約束は、2015年の国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)21で採択されたパリ協定および、21年COP26の「グラスゴー気候合意」により、世界の平均気温上昇を産業革命以前より1.5°C以内に抑える目標を指す。

2023年は日本も含め世界各地が熱波に

襲われ、ヨーロッパ南部、カナダなどの大規模森林火災、砂漠地帯のリビアの豪雨と洪水など異常気象による災害が頻発した。世界気象機関(WMO)は23年は10月までに世界の平均気温が産業革命以前の1850~1900年の基準に対して1.4°C上回ったと発表している。気候変動は生態系への影響、異常気象による食糧生産へのダメージ、海面上昇など人間活動の持続可能性を阻害する深刻な要因となっている。

23年12月のCOP28ではこの目標に向けて、化石燃料からの脱却を進めることを

合意文書に明記した。50年までに温室効果ガス(GHG)排出ゼロとするために30年に19年比43%削減を目指し、同年までに世界全体の再生可能エネルギーの発電容量を3倍にする、GHGを排出しないゼロエミッション車の導入加速なども盛り込んだ。各国には25年までにGHG削減強化案の提出が求められた。

脱炭素に向けた技術革新を含め、一層のGHG削減を実現する取り組みが企業活動の評価につながるだろう。

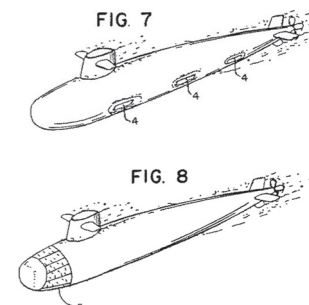
## 知財 mini トリビア

# 第13回 20年4カ月以上も公開されなかった特許出願

我が国の特許出願は、原則として出願日から1年6カ月経過後に、その内容が出願公開されます。もっとも、出願公開の請求がなされた場合や、早期に特許権が成立した場合は、もっと早い段階で公開されます。

一方で、いつまでも公開されないことがあります。あまり知られていませんが、「日米防衛特許協定」に基づき、米国で秘密とされた特許出願に対応する我が国の特許出願が、米国での秘密保持がなくなるまで公開されないという制度があります。そのうち、1988年(昭和63)6月10日に出願された「製法及び応用を含む圧電セラミック材料」(特願昭63-800002)は、なんと20年4カ月以上が経過した2008年(平成20)10月23日に出願公開されました(特開2008-258183)。これは、潜水艦の聴音装置などに使用できる材料に関する米国企業の出願です。

我が国では1948年に秘密特許制度が廃止されましたが、このような例外もあったのです。なお、経済安全保障の観点から特許出願非公開制度(機微技術の流出防止のため出願内容を非公開にできる制度)が2024年5月から運用される予定です。(弁理士 稲穂健市)



特開2008-258183